

中小企業動向調査

この調査は富山県内企業422社を対象に実施し、325社より回答があり、その結果□をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成21年4月～6月の実績、平成21年7月～9月の見込み、平成21年10月～12月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調査時期：平成21年6月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	199□	151□	75.9%□
非 製 造 業	223□	174□	78.0%□
計	422	325	77.0%

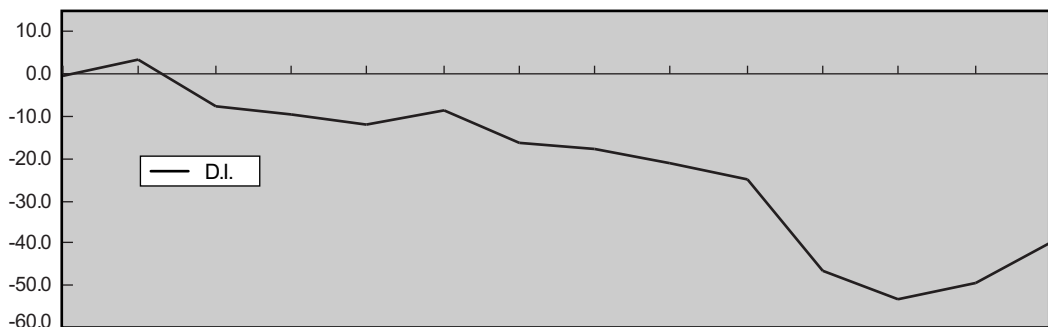
日銀が8月5日に公表した、北陸の金融経済月報（2009年8月）によると、「北陸の景気は、依然として厳しい状況にあるが、足もと下げ止まっている。最終需要をみると、設備投資は大幅に減少し、住宅投資も減少が続いている。

一方、輸出は持ち直しの動きが続いており、個人消費も、全体としては弱い状況にあるが、一部には政策効果から持ち直しの動きがみられている。また、公共投資も北陸新幹線工事の大口発注が続いていることなどから、引続き増加している。企業収益は、減益傾向が続いている。雇用・所得も引き続き厳しい状況にある。先行きは、生産持ち直しの動きが広がることなどから、全体として次第に持ち直しに向かうとみられる。」と発表している。

I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

期別 種別	18 年		19 年				20 年				21 年			
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
良 い	18.3	20.9	17.6□	13.4	13.6	14.6	12.6	12.9	8.4	9.4	4.4	3.4	2.8	4.3
普 通	62.9	61.8	57.4□	63.5	61.1	62.3	58.4	56.6	62.2	56.3	44.7	39.8	45.0	51.6
悪 い	18.8	17.2	25.0□	23.0	25.3	23.1	29.0	30.5	29.4	34.4	50.9	56.8	52.2	44.1
D . I .	-0.5	3.7	-7.4	-9.6	-11.8	-8.5	-16.4	-17.6	-21.0	-25.0	-46.5	-53.4	-49.4	-39.8

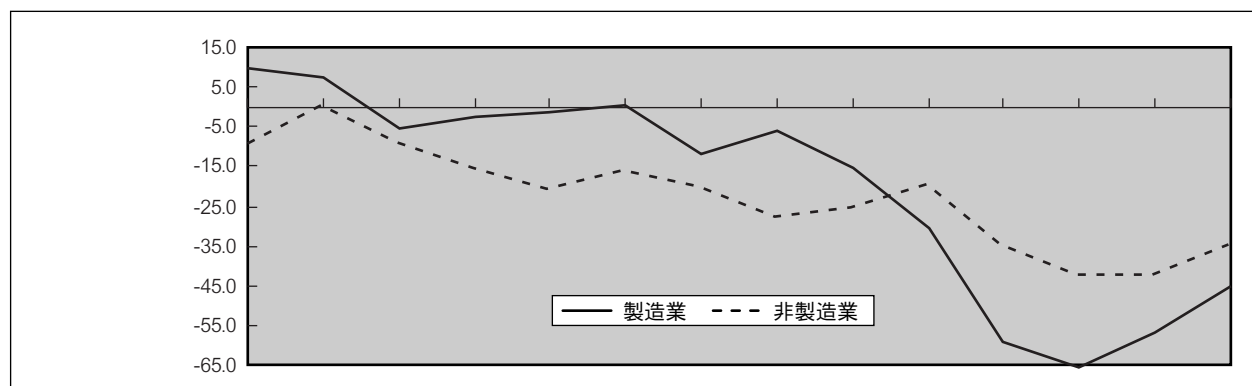


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

期別 種別		（%）												見込	予測
		18 年		19 年				20 年				21 年			
		7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
良	い	24.5	22.4	18.1	16.7	20.0	19.9	14.6	16.3	10.2	8.4	2.6	0.7	2.0	4.0
普	通	60.9	62.8	58.5	64.0	58.9	60.8	59.1	61.2	64.1	52.6	35.5	33.1	39.3	47.0
悪	い	14.6	14.8	23.4	19.4	21.1	19.4	26.3	22.5	25.7	39.0	61.9	66.2	58.7	49.0
D. I.		9.9	7.7	-5.3	-2.7	-1.1	0.5	-11.7	-6.2	-15.6	-30.5	-59.4	-65.6	-56.7	-45.0

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

期別 種別		（%）												見込	予測
		18 年		19 年				20 年				21 年			
		7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
良	い	12.6	19.5	17.1	10.5	7.8	9.8	10.8	9.7	6.7	10.2	6.0	5.8	3.5	4.6
普	通	64.7	61.0	56.5	63.2	63.1	63.7	57.7	52.2	60.6	59.6	52.5	45.7	50.0	55.5
悪	い	22.7	19.5	26.4	26.3	29.1	26.5	31.4	38.2	32.8	30.1	41.5	48.6	46.5	39.9
D. I.		-10.1	0.0	-9.3	-15.8	-21.4	-16.7	-20.6	-28.5	-26.1	-19.9	-35.5	-42.8	-43.0	-35.3



(1) こうした北陸の状況の中で富山県内の中小企業の業況を全産業で見ても、業況判断指数 D.I.「良い－悪い」の21年4～6月期実績は▲53.4と前期比6.9ポイント悪化した。

先行きについて、21年7～9月期のD.I.は▲49.4となり、21年10～12月期予想は▲39.8と改善していくと予想した回答となった。今期のD.I.は、最低ポイントを更新した。

(2) 業況判断指数D.I.の21年4～6月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前期より6.2ポイント悪化し、▲65.6となった。先行きは改善見込の回答となった。

非製造業についても、今期は7.3ポイント悪化し、▲42.8となった。非製造業は、先行きに対して、21年7～9月は▲43.0と更に悪化予想となっている。しかし、10～12月は改善予測との回答となった。

II. 売上高状況

売上高状況

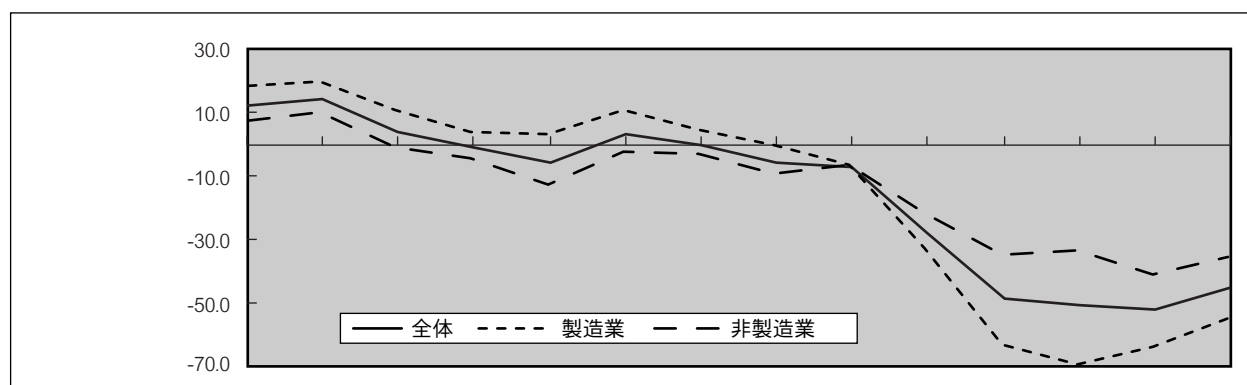
種別 \ 期別	(%)														見込	予測
	18 年		19 年				20 年				21 年					
	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月		
増 加	33.8	36.0	31.6	28.5	26.0	31.5	30.1	26.5	26.0	18.5	11.8	12.7	7.7	7.7		
横 ば い	44.4	42.1	40.7	41.7	42.2	40.4	39.2	41.2	40.9	35.4	28.0	24.1	32.5	39.3		
減 少	21.8	21.9	27.7	29.8	31.8	28.2	30.7	31.6	33.1	46.1	60.2	63.2	59.8	52.9		
D. I.	11.9	14.1	3.9	-1.2	-5.9	3.3	-0.5	-5.7	-7.1	-27.6	-48.4	-50.5	-52.0	-45.2		

売上高状況（うち製造業のみ）

種別 \ 期別	(%)														見込	予測
	18 年		19 年				20 年				21 年					
	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月		
増 加	38.0	39.9	34.7	31.6	31.0	36.5	34.0	30.6	28.6	17.1	7.8	7.4	4.7	5.4		
横 ば い	41.7	39.4	40.5	40.0	40.2	37.1	3.5	37.8	35.7	32.2	20.6	15.4	26.2	33.6		
減 少	20.3	20.7	24.8	28.5	28.8	26.3	30.4	31.7	35.7	50.7	71.6	77.2	69.1	61.1		
D. I.	17.7	19.2	10.0	3.2	2.2	10.2	3.5	-1.1	-7.1	-33.6	-63.9	-69.8	-64.4	-55.7		

売上高状況（うち非製造業のみ）

種別 \ 期別	(%)														見込	予測
	18 年		19 年				20 年				21 年					
	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月		
増 加	29.8	32.4	28.9	25.8	21.4	26.9	26.8	22.8	23.6	19.8	15.2	17.2	10.3	9.8		
横 ば い	46.9	44.6	40.8	43.2	43.9	43.3	42.3	44.4	45.6	38.3	34.2	31.6	37.9	44.3		
減 少	23.2	23.0	30.3	31.0	34.6	29.8	30.9	32.8	30.8	41.9	50.5	51.1	51.7	46.0		
D. I.	6.6	9.4	-1.4	-5.2	-13.2	-2.9	-4.1	-10.1	-7.1	-22.2	-35.3	-33.9	-41.4	-36.2		



(1) 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。今回調査では、前期より2.1ポイント悪化し▲50.5と最低ポイントとなった。

先行きについては、悪化予想となっており、D.I.は▲52.0との回答であった。10~12月予測は▲45.2であり、改善の予想となっている。

(2) 売上高状況D.I.を製造業と非製造業で分けると、前期比製造業はやや悪化、非製造業はやや改善の回答であった。また、先行きの見込については、製造業は改善、非製造業は悪化予想となっている。今期も先行きについても、製造業のD.I.のマイナスポイントが高い状況である。

Ⅲ. 生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

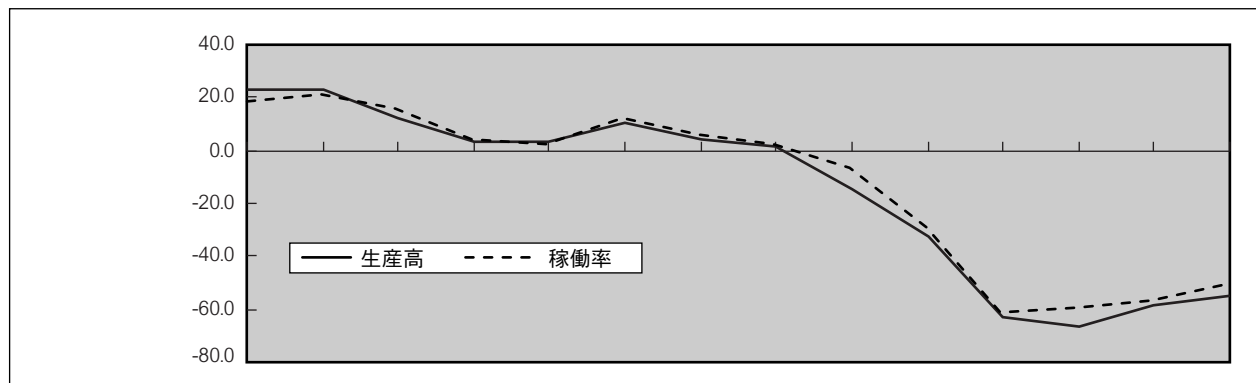
(%) 見込 予測

期別 種別	18 年		19 年				20 年				21 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
20%以上増加	10.7	8.4	6.5	4.4	8.1	7.9	4.4	5.9	1.8	1.9	1.3	0.7	0.7	1.3
20%未満増加	28.3	31.6	27.2	26.4	21.4	27.5	28.8	24.1	21.2	14.6	5.9	5.2	5.9	5.9
横ばい状況	44.9	42.6	45.1	41.8	43.9	39.9	38.1	41.2	39.4	34.8	22.9	21.6	28.3	30.9
20%未満減少	14.4	17.4	19.0	24.2	23.1	21.3	25.6	26.5	30.3	35.4	33.3	32.7	32.9	36.2
20%以上減少	1.6	0.0	2.2	3.3	3.5	3.4	3.1	2.4	7.3	13.3	36.6	39.9	32.2	25.7
D . I .	23.0	22.6	12.5	3.3	2.9	10.7	4.4	1.2	-14.5	-32.3	-62.7	-66.7	-58.6	-54.6

稼働率（製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	18 年		19 年				20 年				21 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
上 昇	9.3	5.9	5.1	5.6	5.9	6.9	4.6	7.2	2.6	1.9	0.7	0.7	0.0	0.7
やや上昇	25.1	31.2	28.2	20.8	18.9	25.3	27.8	21.7	19.9	13.5	5.4	6.6	5.3	6.6
横ばい	49.2	46.2	48.6	50.6	52.1	47.1	40.4	43.4	47.4	39.1	26.2	25.0	31.6	34.2
やや下降	15.8	16.7	16.9	20.8	18.3	17.8	23.8	25.3	24.4	30.1	30.2	22.4	23.7	27.0
下 降	0.5	0.0	1.1	2.2	4.7	2.9	3.3	2.4	5.8	15.4	37.6	45.4	39.5	31.6
D . I .	18.0	20.4	15.3	3.4	1.8	11.5	5.3	1.2	-7.7	-30.1	-61.7	-60.5	-57.9	-51.3



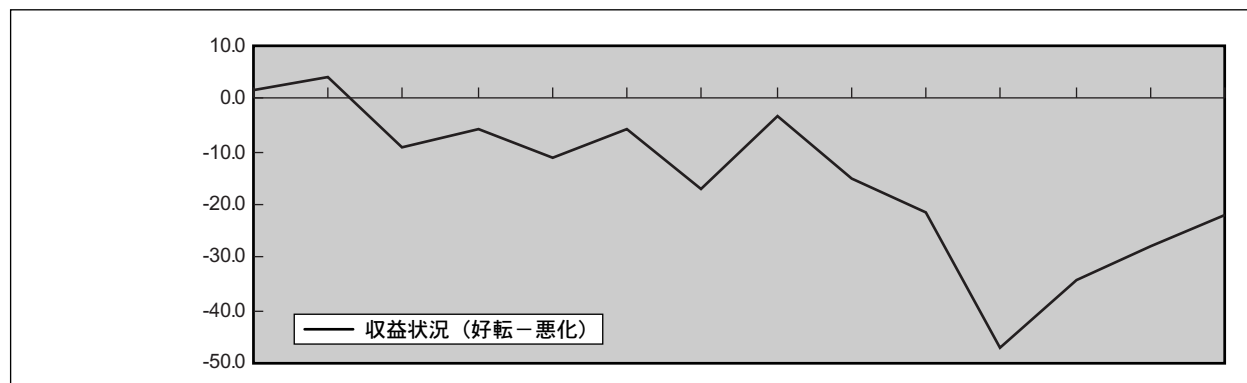
- (1) 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.Iは、前記の最低ポイントを更新し、▲66.7となった。先行きについては、改善する予想となっている。
- (2) 稼働率状況D.Iは、前期比改善の回答となった。先行きについても、マイナスポイントが減少し、稼働率が下降とする回答が減少してきている。在庫調整も進み、稼働率は回復に向かっていると思われる。

IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	18 年		19 年				20 年				21 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
好 転	18.4	23.2	19.2	16.6	12.4	18.5	16.1	20.1	12.7	12.7	5.6	11.1	10.5	13.6
横 ば い	64.9	57.7	52.5	61.3	63.9	57.5	50.8	56.5	59.5	52.8	41.9	43.5	51.2	50.6
悪 化	16.7	19.1	28.4	22.1	23.7	24.1	33.1	23.4	27.7	34.5	52.5	45.4	38.3	35.8
D . I .	1.7	4.2	-9.2	-5.5	-11.3	-5.6	-16.9	-3.3	-15.0	-21.7	-46.9	-34.3	-27.8	-22.2



好転理由

(%) 見込 予測

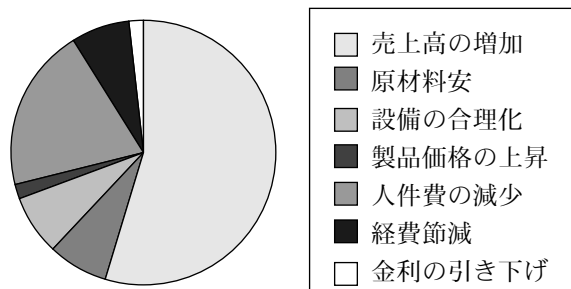
期別 種別	18 年		19 年				20 年				21 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
売上高の増加	61.9	61.5	69.4	61.4	66.2	64.4	58.9	57.0	65.1	64.3	52.5	49.2	56.3	62.3
原材料安	6.2	4.9	3.1	1.1	1.5	2.3	2.2	0.9	4.8	14.3	12.5	6.6	6.3	5.7
設備の合理化	4.1	2.5	4.1	4.5	3.1	2.3	2.2	1.9	0.0	1.8	5.0	6.6	2.1	0.0
製品価格の上昇	9.3	10.7	6.1	6.8	7.7	6.9	14.4	17.8	11.1	5.4	0.0	1.6	4.2	3.8
人件費の減少	6.2	5.7	6.1	3.4	3.1	6.9	5.6	6.5	3.2	1.8	12.5	18.0	14.6	15.1
経費節減	12.4	14.8	11.2	21.6	16.9	16.1	13.3	15.9	12.7	12.5	17.5	6.4	16.7	13.2
金利の引き下げ	0.0	0.0	0.0	1.1	1.5	1.1	3.3	0.0	3.2	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0

悪化理由

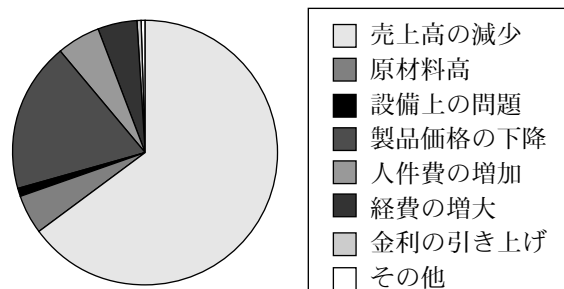
(%) 見込 予測

期別 種別	18 年		19 年				20 年				21 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
売上高の減少	35.4	40.7	55.7	47.2	17.6	48.0	53.0	46.2	43.3	60.6	68.6	64.9	61.6	62.9
原材料高	28.1	20.3	18.4	25.0	21.0	26.3	29.2	31.7	30.4	14.3	6.3	4.8	5.1	4.4
設備上の問題	1.0	2.5	0.0	1.4	2.1	1.3	0.0	0.0	1.8	0.0	0.8	1.0	1.1	0.6
製品価格の下降	10.4	8.5	5.1	6.9	11.9	5.3	4.8	4.8	8.2	11.4	12.5	18.3	18.6	20.1
経費の増大	15.6	10.2	7.0	10.4	10.5	11.8	5.4	9.0	9.4	6.9	5.1	5.3	5.6	5.7
人件費の増加	4.2	8.5	6.3	2.8	4.2	5.3	5.4	4.8	4.1	4.0	4.7	4.8	5.6	4.4
金利の引き上げ	1.0	1.7	2.5	2.8	0.0	0.0	0.6	1.4	0.6	0.0	0.4	0.5	0.0	0.0
そ の 他	4.2	7.6	5.1	3.5	2.8	2.0	1.8	2.1	2.3	2.9	1.6	0.5	2.3	1.9

好転理由



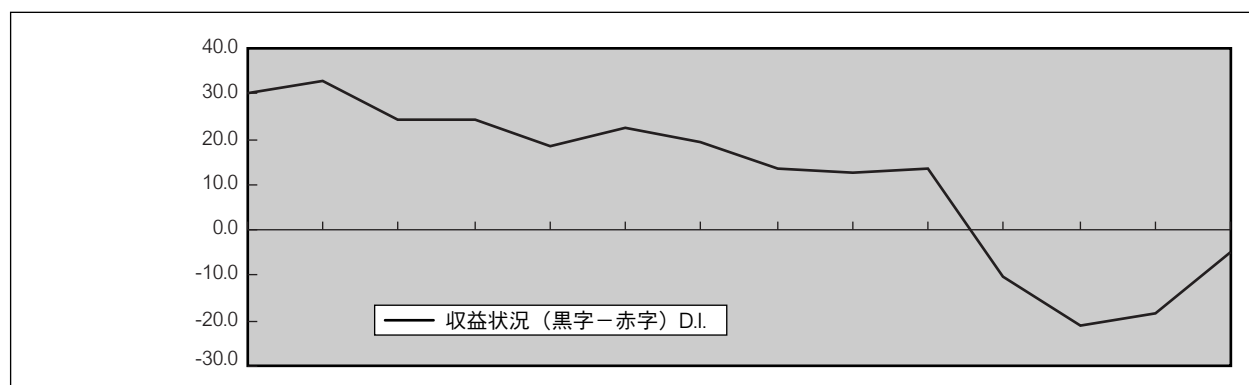
悪化理由



- (1) 収益状況「好転－悪化」D.I.は前期比12.6ポイント改善し、▲34.3となった。前期D.I.は最低ポイントとなったが、収益状況は改善している回答となっている。先行きでも、ポイントは改善する予想となっている。
- (2) 今期収益が好転した理由は、「人件費の減少」ポイントが前期比増加している。「売上高の増加」を理由とするポイントは依然高いが、減少している。先行きについては、「売上高の増加」「経費節減」とする理由が高いポイントとなっている。□
- (3) 収益が悪化した理由は、「売上高の減少」「製品価格の下降」が今期も高いポイントとなっている。「製品価格の下降」は前期比5.8ポイント増加している。「売上高の減少」「原材料高」のポイントは減少してきている。先行きについても「売上高の減少」を理由とするポイントは減少見込となっている。

収益状況（黒字－償却後赤字）

種別	（%）													
	18年		19年				20年				21年			
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
黒字	44.6	48.5	43.5	43.0	38.3	41.9	39.1	34.7	34.3	36.6	25.0	19.0	16.5	21.5
収支トントン	40.8	35.7	37.3	38.4	41.9	38.6	41.3	44.1	44.1	40.4	39.6	41.1	48.6	52.3
償却後赤字	14.6	15.8	19.3	18.6	19.8	19.5	19.7	21.2	21.6	23.0	35.4	39.9	34.9	26.2
D.I.	30.0	32.8	24.3	24.4	18.5	22.4	19.4	13.5	12.7	13.6	-10.4	-20.9	-18.4	-4.7



- (4) 収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は、前期よりマイナスポイントとなっているが、今期は更に悪化し▲20.9となり、最低ポイントとなった。先行きについては、マイナスポイントではあるが改善予想となっている。10～12月期予測では、今期より16.2ポイント改善、▲4.7の予想である。4～6月期は収益状況が最も厳しい状況であったが、底であり改善されていくと予想している。

V. 製品在庫水準

製品在庫水準

期別 種別	18年		19年				20年				21年			
	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~
	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
不足	3.9	3.6	2.4	2.8	4.4	1.6	1.7	2.7	3.3	1.5	1.5	2.2	2.2	2.2
適正	85.5	86.4	84.9	84.9	82.6	85.5	86.3	86.2	85.1	86.0	78.0	79.2	81.5	87.1
過剰	10.6	10.0	12.7	12.3	13.1	12.9	11.9	11.1	11.6	12.5	20.5	18.6	16.2	10.7
D.I.	-6.6	-6.4	-10.3	-9.5	-8.7	-11.3	-10.2	-8.4	-8.3	-11.1	-19.0	-16.4	-14.0	-8.5

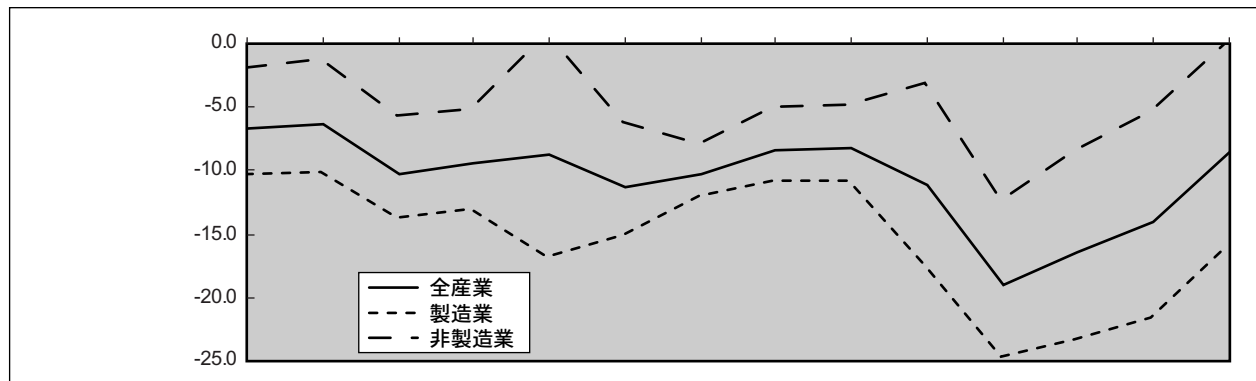
製品在庫水準（うち製造業のみ）

期別 種別	18年		19年				20年				21年			
	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~
	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
不足	3.3	3.7	1.1	2.3	2.3	1.1	1.3	1.2	2.6	1.4	0.7	2.1	2.1	1.4
適正	83.0	82.4	83.9	82.3	78.5	82.4	85.3	86.6	84.0	79.7	73.8	72.4	74.1	81.1
過剰	13.7	13.9	15.0	15.4	19.2	16.5	13.5	12.2	13.5	18.9	25.5	25.5	23.8	17.5
D.I.	-10.4	-10.2	-13.9	-13.1	-16.9	-15.3	-12.2	-11.0	-10.9	-17.6	-24.8	-23.4	-21.7	-16.1

製品在庫水準（うち非製造業のみ）

期別 種別	18年		19年				20年				21年			
	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~
	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
不足	4.7	3.5	4.0	3.3	6.7	2.1	2.2	4.5	4.2	1.6	2.3	2.3	9月	3.1
適正	88.6	91.6	86.1	88.0	87.2	89.4	87.6	85.8	86.7	93.5	82.8	86.8	2.3	93.8
過剰	6.7	4.9	9.9	8.7	6.0	8.5	10.2	9.7	9.2	4.9	14.8	10.9	89.8	3.1
D.I.	-2.0	-1.4	-5.9	-5.3	0.7	-6.3	-8.0	-5.2	-5.0	-3.3	-12.5	-8.5	7.8	0.0

-5.5



- (1) 全産業の製品在庫水準「不足-過剰」D.I.は、21年4~6月期は▲16.4となり、前期比2.6ポイント改善し、在庫は適正水準に近づいている。先行きについても、在庫水準は改善見込となっており、10~12月期▲8.5の予測となっている。
- (2) 21年4~6月期の業種別では、電子部品製造が過剰感が最も高いポイントとなった。また、プラスチック、木工建具も過剰との回答ポイントが前期比増加している。前期、高いポイントであった高岡銅器、不動産は改善されている。

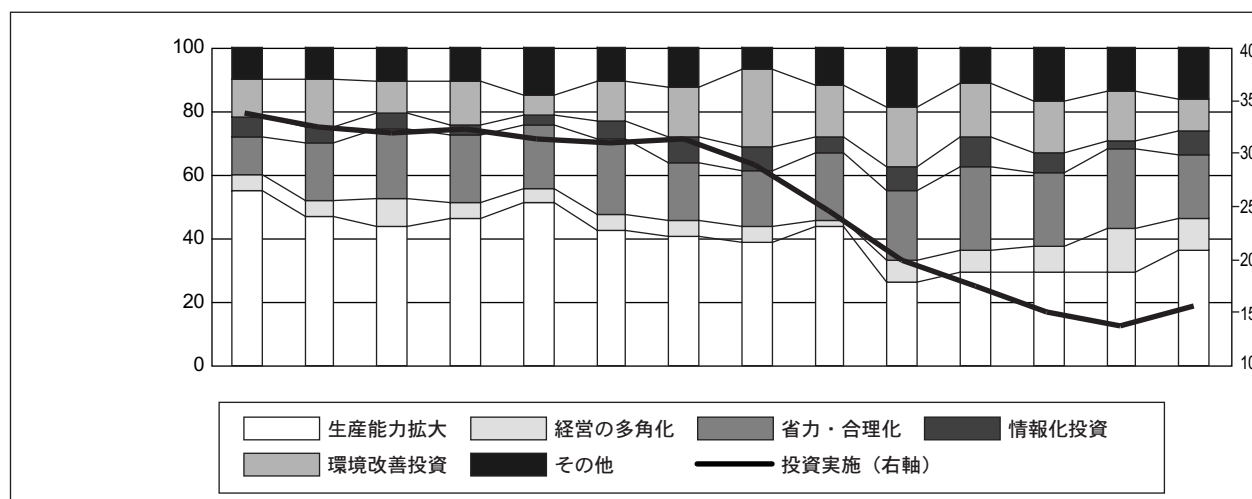
VI. 設備投資動向

設備投資の有無

期別 種別	20年												21年			
	18年		19年				20年				21年				見込	予測
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
投資実施	33.7	32.4	31.8	32.2	31.4	30.9	31.1	28.8	24.4	19.8	17.3	14.8	13.6	15.5		
投資せず	66.3	67.6	68.2	67.8	68.6	69.1	68.8	71.2	75.6	80.2	82.7	85.2	86.4	84.5		

設備投資の目的（実施先について）

	20年														21年	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	見込	予測
生産能力拡大	55.1	46.6	43.8	46.2	51.6	42.6	40.4	38.7	43.5	26.6	29.5	29.2	29.5	36.0		
経営の多角化	5.1	5.3	8.5	5.4	4.1	4.9	5.3	4.7	2.4	6.3	6.6	8.3	13.6	10.0		
省力・合理化	11.8	18.0	22.3	20.8	19.7	23.8	18.4	17.9	21.2	21.9	26.2	22.9	25.0	20.0		
情報化投資	5.9	5.3	4.6	3.1	3.3	5.7	7.9	7.5	4.7	7.8	9.8	6.3	2.3	8.0		
環境改善投資	11.8	15.0	10.0	13.8	6.6	12.3	15.8	24.5	16.5	18.8	16.4	16.7	15.9	10.0		
その他	10.3	9.8	10.8	10.8	14.8	10.7	12.3	6.6	11.8	18.8	11.5	16.7	13.6	16.0		



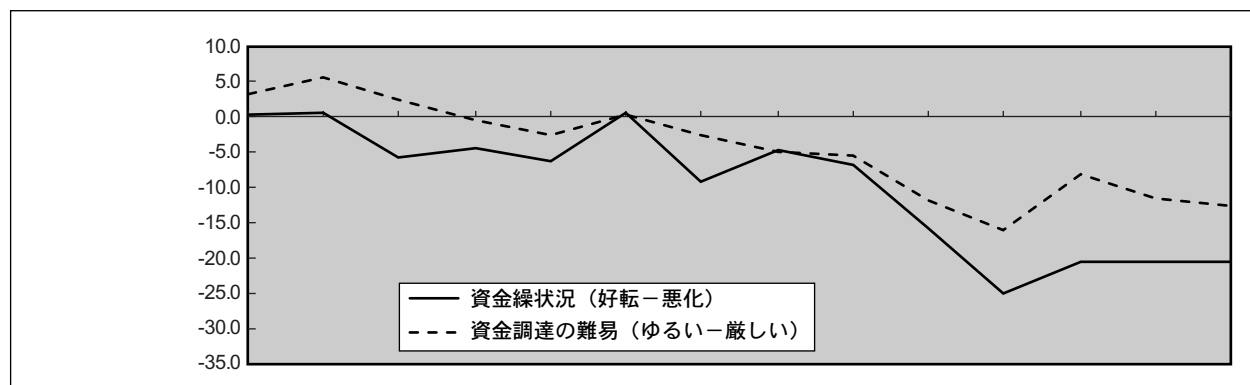
- (1) 21年4~6月に設備投資を実施した企業は全産業の14.8%と、2.5ポイント低下した。先行きについては、7~9月期減少見込であるが、10~12月期は15.5%とやや増加見込。製造業では20.5%、非製造業9.8%が設備投資を行っている。設備投資を行う企業は低下しているが、医薬品製造業では44.5%が設備投資を行っている。
- (2) 先行き設備投資を予定している業種でポイントが高いのは、7~9月期では宿泊業、出版印刷紙加工となっている。10~12月期では電子部品製造と出版印刷紙加工のポイントが高くなっている。設備の目的別では、生産販売能力拡大、省力合理化、環境改善の順となっている。先行きについても、同様の目的となっている。

VII. 資金繰り状況

資金繰り状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	18年		19年				20年				21年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
好転	9.2	11.0	8.1	6.8	5.9	10.4	7.4	8.5	6.0	4.4	5.0	6.2	5.3	6.8
変わらず	81.9	78.4	78.1	82.0	81.7	79.6	76.0	78.4	81.0	75.5	65.0	67.3	68.9	65.8
悪化	8.9	10.5	13.8	11.3	12.4	9.9	16.7	13.2	12.9	20.1	30.0	26.5	25.8	27.3
D.I.	0.2	0.5	-5.7	-4.5	-6.4	0.5	-9.3	-4.7	-6.9	-15.7	-25.0	-20.4	-20.5	-20.5



資金調達の難易（ゆるい－厳しい）

(%) 見込 予測

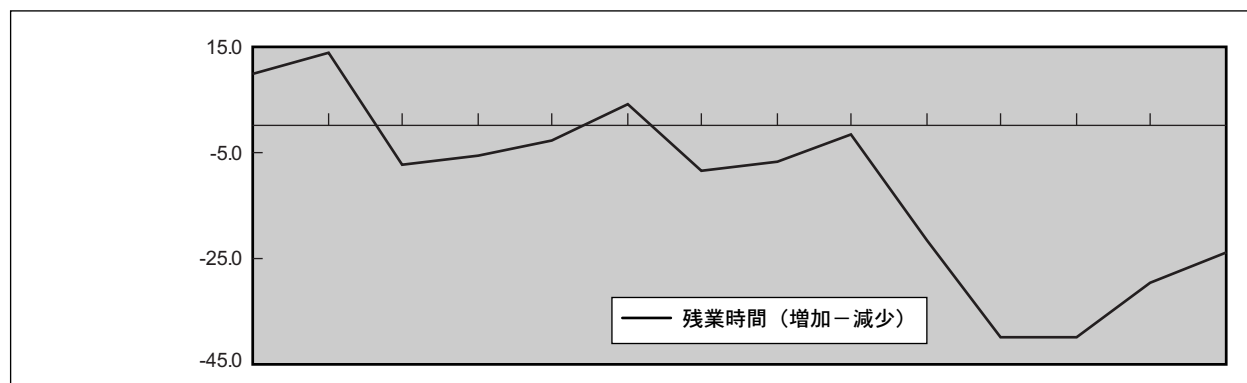
期別 種別	18年		19年				20年				21年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
ゆるい	13.2	13.8	13.6	11.6	10.6	10.4	12.2	7.9	7.5	5.9	4.4	5.9	5.0	4.7
厳しくない	76.3	77.8	75.0	76.1	76.0	79.3	72.8	79.0	79.3	75.9	74.9	79.9	78.1	77.8
厳しい	10.4	8.5	11.4	12.3	13.4	10.4	15.0	13.1	13.2	18.1	20.7	14.2	16.9	17.5
D.I.	2.8	5.3	2.2	-0.8	-2.8	0.0	-2.8	-5.2	-5.7	-12.2	-16.3	-8.3	-11.9	-12.8

- 資金繰り状況D.I.「好転－悪化」実績は、前期比4.6ポイント改善され▲20.4となった。先行きについては▲20.5と、ポイントは横ばいの回答であった。資金繰りは、まだ、悪化しているとのポイントが高い状況である。□
- 資金調達の難易D.I.「ゆるい－厳しい」においても、▲8.3と前期比8.0ポイント改善している。先行きについては、また、悪化見込となっており、今期は改善されたが、先行きは厳しい状況うかがわれる。業種別では、不動産、窯業土石、土木業の厳しいとの回答が多い。先行きについては他にアルミ製品からの厳しいとの回答が多くなっている。

VIII. 労務事情

残業時間

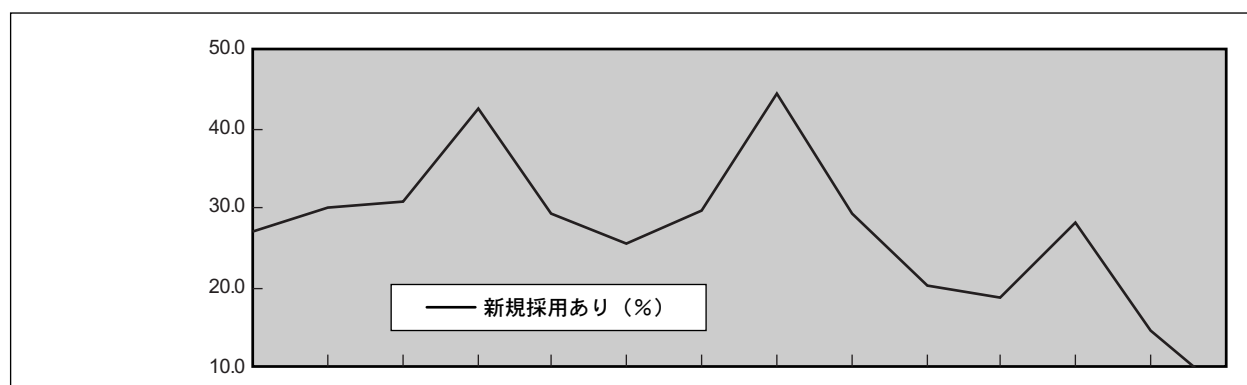
期別 種別	(%)														見込	予測
	18年		19年				20年				21年					
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
増加	17.2	22.5	15.6	14.0	15.1	18.7	14.3	12.4	17.6	10.0	6.5	4.3	6.6	7.2		
横ばい	75.3	68.7	61.3	66.6	67.2	67.0	63.1	68.4	63.4	58.5	47.4	51.6	57.4	61.8		
減少	7.5	8.8	23.1	19.5	17.7	14.4	22.5	19.2	19.0	31.6	46.1	44.1	36.1	30.9		
D.I.	9.6	13.7	-7.5	-5.5	-2.5	4.3	-8.2	-6.8	-1.4	-21.6	-39.6	-39.8	-29.5	-23.7		



- (1) 残業時間D.I.は▲39.8となり、前期比0.2ポイント悪化している。残業時間は減少傾向となっている。先行きについては横ばいとのポイントが増加し、減少とのポイントは減ってきている。業種別では、製造業は残業時間が減少しているが、非製造業では増加との回答が増加しD.I.は前期比11.2ポイント改善となっている。

新規採用実績(採用あり：%) ※常用・臨時合算

期別 種別	(%)														見込	予測
	18年		19年				20年				21年					
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
全産業	26.9	29.9	30.6	42.5	29.2	25.6	29.7	44.5	29.3	20.1	18.6	28.1	14.6	6.6		
(うち製造業)	25.9	29.9	28.1	41.6	25.4	27.7	30.9	43.2	30.6	18.0	15.0	22.7	8.7	3.4		
(うち非製造業)	27.8	30.0	32.7	43.3	32.5	23.7	28.7	45.7	28.1	22.0	21.5	32.8	19.5	9.2		

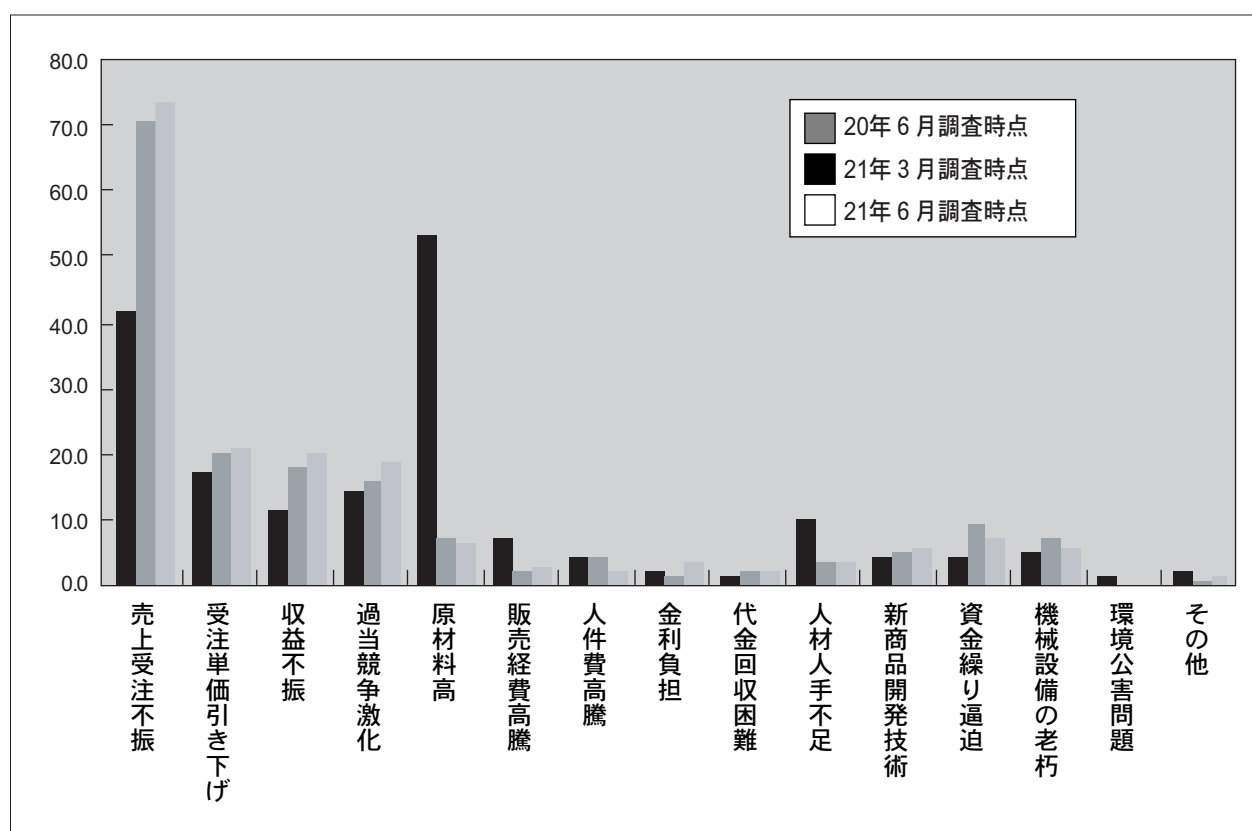


- (2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、全産業について4~6月の採用は全産業で増加となった。前年同期に比べ採用実績は大幅に減少している。7~9月見込みでも14.6%と前年同期に比べ減少予想となっている。製造業の先行き予想でも前年同期に比べ減少となっている。

IX. 当面の経営上の問題点

□ (%:複数回答あり)

	20年6月 (前年)	21年3月 (前回)	21年6月 (今回)	21年6月(今回)		前回は増減
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売上受注不振	42.1	70.5	73.5	(80.1)	(67.8)	3.0
受注単価引き下げ	17.4	20.1	20.6	(23.8)	(17.8)	0.5
収益不振	11.7	18.1	20.0	(18.5)	(21.3)	1.9
過当競争激化	14.4	15.6	18.5	(11.9)	(24.1)	2.9
原材料高	53.0	7.1	6.5	(7.9)	(5.2)	-0.6
販売経費高騰	7.1	2.3	2.8	(0.7)	(4.6)	0.5
人件費高騰	4.3	4.5	2.5	(0.7)	(4.0)	-2.0
金利負担	2.2	1.7	3.7	(2.6)	(4.6)	2.0
代金回収困難	1.6	2.5	2.2	(1.3)	(2.9)	-0.3
人材人手不足	10.1	3.7	3.4	(0.7)	(5.7)	-0.3
新商品開発技術	4.3	5.1	5.8	(9.9)	(2.3)	0.7
資金繰り逼迫	4.3	9.1	7.4	(7.3)	(7.5)	-1.7
機械設備の老朽	5.4	7.1	5.5	(4.6)	(6.3)	-1.6
環境公害問題	1.1	0.0	0.3	(0.0)	(0.6)	0.3
その他	1.9	0.8	1.5	(2.0)	(1.1)	0.7



- (1) 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振73.5%（前期比+3.0ポイント）、②受注単価引下げ20.6%（前期比+0.5ポイント）③収益不振20.0（前期比+1.9）の順になっている。
- (2) 今回調査でも、前期と同じ回答が上位となっているが、過当競争激化を問題とするポイントが増加している。また、金利負担も前期比2ポイント増加している。
- (3) 業種別では、金属製品製造、機械工具販売が売上受注不振との回答が100%となった。受注単価引下げでは、アルミ製品製造が53.3%と高いポイントとなっている。過当競争激化は鋼材建材販売が高い問題点としている。